

Windows XP Service Pack 2 適用時の SQL Server 2000/MSDE 2000 への影響について

2004 年 9 月 17 日
富士通株式会社

はじめに

本資料は、SQL Server 2000/MSDE 2000 運用中の環境において、Windows XP Service Pack 2(以降 SP2)を適用した際の、SQL Server 2000/MSDE 2000 への影響および、必要な設定変更について説明した資料です。

なお、本資料は以下の環境にて実施した Windows XP SP2 適用テストの結果を元に作成しております。運用パターンや適用対象環境の状態によっては他の設定が必要になる可能性もありますので、実運用環境への適用にあたっては必ず事前の適用テスト/動作テストを実施して下さい。

[Windows XP SP2 適用テスト環境]

OS	Windows 2000 Server (Service Pack 4 適用済み) Windows XP Professional Edition (Service Pack 2 適用済み)
データベース	SQL Server 2000 Developer Edition (Service Pack 3a 適用済み) MSDE 2000 (Service Pack 3a 適用済み)

なお、マイクロソフト社の Web サイト上に以下の記事が公開されています(2004 年 9 月 17 日現在)。本資料では触れていない Analysis Services や Reporting Services に関する影響/設定変更や、マイクロソフト社で確認されている障害情報等へのリンクが記載されています。詳細は下記 URL でご確認下さい。

Windows XP Service Pack 2 による SQL Server、および MSDE に対する影響について

<http://www.microsoft.com/japan/sql/techinfo/Administration/2000/security/winxpsp2faq.msp>

URL は今後変更される可能性があります

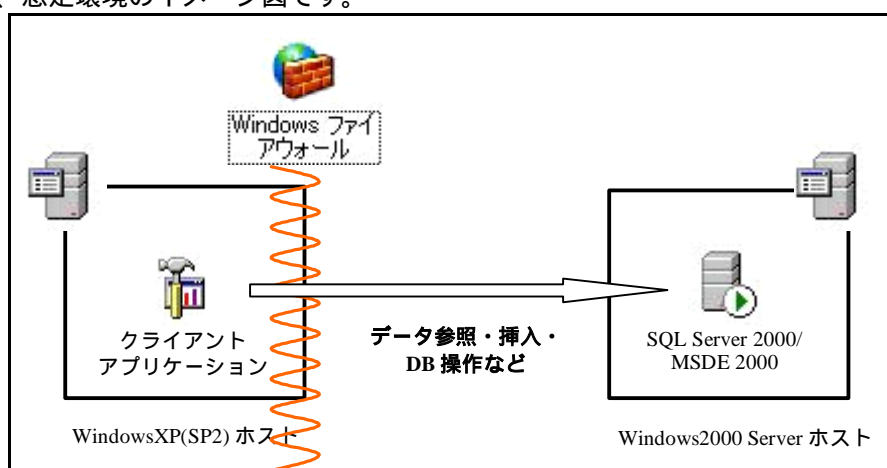
1. Windows XP(SP2 適用済み)上のクライアントアプリケーションが、Windows 2000 上の SQL Server 2000/MSDE 2000 に接続するケース

1.1 ケース詳細説明

本ケースでは、Windows XP(SP2 適用済み)環境上のクライアントアプリケーションが、Windows 2000 Server 上で稼動する SQL Server 2000/MSDE 2000 に対して、接続・操作を行うケースを想定しています。

1.2 想定環境イメージ

下図は、想定環境のイメージ図です。



1.3 Windows ファイアウォール例外設定

Windows XP(SP2)ホスト上の Windows ファイアウォールに必要な、例外設定は下記表の通りです。

使用するネットワークプロトコル	接続先の SQL Server 2000 / MSDE 2000 インスタンス種別	Windows ファイアウォールの例外設定
TCP/IP	デフォルト	・ 設定不用
	名前付き	・ 設定不用
名前付きパイプ	デフォルト	・ 設定不用
	名前付き	・ 設定不用
マルチプロトコル	デフォルト	・ 設定不用
	名前付き	・ 未サポート

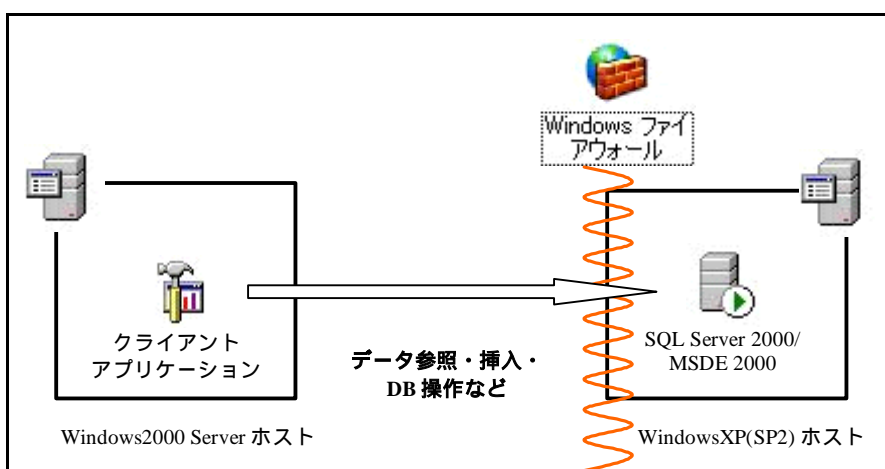
2. Windows 2000 上のアプリケーションが、Windows XP(SP2 適用済み)上の SQL Server 2000/MSDE 2000 データベースに接続するケース

2.1 ケース詳細説明

本ケースでは、Windows 2000 Server 環境上のアプリケーションが、Windows XP(SP2)上で稼動する SQL Server 2000/MSDE 2000 データベースに対して、接続・操作を行うケースを想定しています。

2.2 想定環境イメージ

下図は、想定環境のイメージ図です。



2.3 Windows ファイアウォール例外設定

Windows XP(SP2)ホスト上の Windows ファイアウォールで必要な、例外設定は下記表の通りです。

使用するネットワークプロトコル	接続先の SQL Server 2000 / MSDE 2000 インスタンス種別	Windows ファイアウォールの例外設定
TCP/IP	デフォルト	・ sqlservr.exe プログラムの登録
	名前付き	・ sqlservr.exe プログラムの登録 (名前付きインスタンス インストールフォルダ内のファイルを指定)
名前付きパイプ	デフォルト	・ TCP445 ポートの登録
	名前付き	・ TCP445、UDP1434 ポートの登録
マルチプロトコル	デフォルト	・ TCP445 ポートの登録
	名前付き	・ 未サポート

3. Windows 2000 上の SQL Server 2000(パブリッシャ)と Windows XP 上の MSDE2000(サブスライバ)間でレプリケーションを行うケース

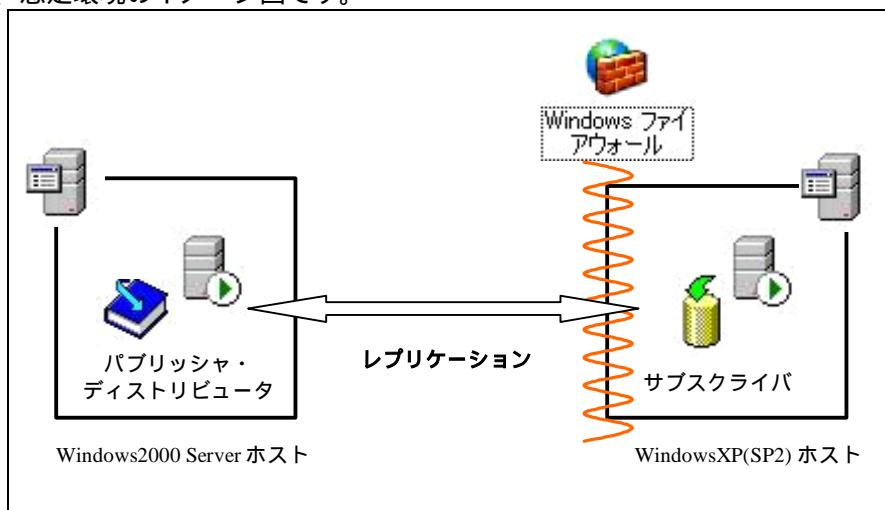
3.1 ケース詳細説明

本ケースでは、Windows 2000 Server 上の SQL Server 2000 から Windows XP(SP2)上の SQL Server 2000/MSDE 2000 へ、テーブル内容を継続的に配信する「レプリケーション」機能を使用するケースを想定しています。

Windows 2000 Server 上の SQL Server 2000 は配信元の「パブリッシャ」、Windows XP(SP2)上の SQL Server 2000/MSDE 2000 は配信先の「サブスライバ」となります。またこのケースでは、配信処理を行う「ディストリビュータ」は Windows 2000 Server 上の SQL Server 2000 が担当しています。

3.2 想定環境イメージ

下図は、想定環境のイメージ図です。



3.3 Windows ファイアウォール例外設定

Windows XP(SP2)ホスト上の Windows ファイアウォールで必要な、例外設定は下記表の通りです。

使用するネットワークプロトコル	接続先の SQL Server 2000 / MSDE 2000 インスタンス種別	Windows ファイアウォールの例外設定
TCP/IP	デフォルト	・ sqlservr.exe プログラムの登録
	名前付き	・ sqlservr.exe プログラムの登録 (名前付きインスタンス インストールフォルダ内のファイルを指定) および ・ UDP1434 ポートの登録
名前付きパイプ	デフォルト	・ TCP445 ポートの登録
	名前付き	・ TCP445、UDP1434 ポートの登録
マルチプロトコル	デフォルト	・ TCP445 ポートの登録
	名前付き	・ 未サポート

以上